

# 実りある授業のために 小学校音楽

〔H25. 秋〕 島根県教育委員会

## ♪ 1 音楽科における「思考・判断・表現」に係る観点の考え方について

音楽科の学習評価では、「思考・判断・表現」に係る観点として、「音楽表現の創意工夫」及び「鑑賞の能力」の観点を位置付けている。それぞれの観点の趣旨は次のとおりである。

音楽表現の創意工夫	<u>音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。</u>
鑑賞の能力	<u>音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え、味わって聴いている。</u>

下線部は、〈音楽的な感受〉に相当する〔共通事項〕アの指導内容である。音楽科では、〈音楽的な感受〉に基づいた思考力・判断力・表現力を育むことが大切であることから、「音楽表現の創意工夫」「鑑賞の能力」のそれぞれの趣旨に、〈音楽的な感受〉〔共通事項〕アの内容を位置付けている。

### (1) 「音楽表現の創意工夫」の学習評価の考え方

- この観点の趣旨には、以下に示す三つの要素が含まれている。

①音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、②音楽表現を工夫し、③どのように表すかについて思いや意図をもつ。

①は〈音楽的な感受〉に当たるものである。この〈音楽的な感受〉を基にしながら、②の音楽表現を考えて工夫することが概ね「思考」、③の「このように表したい」という思いや意図をもつことが概ね「判断」に当たる。さらに、思考・判断したことを言葉など（体の動き、絵や図、音などをも含む）で表すことが概ね「表現」に当たる。

- 前述の①～③は一定の順次で進むわけではない。実際の学習場面では、子どもがまず自分の思いや意図をもち、それを基にしながら音楽表現を工夫するということもある。一方、最初は明確な思いや意図をもっていなくても、音楽表現を工夫することによって、思いや意図がはっきりしたものになってくることもある。また、音楽表現を様々な方法で試すなかから、音楽を形づくっている要素の聴き取りと、それらの働きが生み出すよさや面白さなどの感じ取りが深まることもある。
- 大切なのは、子どもが音楽表現についていろいろと考えながら実際に音に出して試すことによって、思いや意図が高まっていくように指導し、①～③全体を通して、音楽表現を創意工夫する力を育み、どのように表すかについて思いや意図をもつようにすることである。また、具体の状況については、子どもの活動の観察や発言内容、教師との対話や学習カードのような資料への記述内容などから見取ることができる。



### (2) 「鑑賞の能力」の学習評価の考え方

- この観点の趣旨には、以下に示す三つの要素が含まれている。

①音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、②楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え、③味わって聴いている。

①は〈音楽的な感受〉に当たるものである。この〈音楽的な感受〉を基にしながら、②の楽曲の特徴や演奏のよさなどについて考えることが、概ね「思考・判断」に当たる。そして、「この曲にはこんなよさがある」というように、思考・判断したことを言葉など（体の動き、絵や図、音なども含む）で表すことが、概ね「表現」に当たる。



- ・大切なのは、**楽曲全体を味わって聴くようにすること**であり、その具体の状況については、思考・判断した内容を言葉などで顕在化させた学習カードなどの記述などから見取ることができる。

## ♪ 2 「思考・判断・表現」に係る観点の評価の実際について

ここでは、紙面の都合により「音楽表現の創意工夫」の評価の実際についてのみ取り上げる。

第4学年の歌唱共通教材〈とんび〉（葛原しげる作詞／梁田貞作曲）を取り上げ、指導事項はA表現(1)イを位置付けて、曲想にふさわしい表現を工夫して歌う場面の学習評価を考えてみる。

- ・この学習場面を「音楽表現の創意工夫」の観点で評価する場合は、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所教育課程研究センター）」のp.29に掲載されている【評価規準の設定例】を参考にして、次のように【題材の評価規準】を設定することができる。

### 【題材の評価規準】「音楽表現の創意工夫」

「とんび」の旋律、強弱、フレーズ、反復、問いと答えを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、歌詞の表す様子、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている。

- ・前述の評価規準に照らして、〈とんび〉の音楽的な特徴を感じ取りながら、表現をいろいろと工夫し、「こう歌いたい」という思いや意図を発言したり、学習カードに書いたりした内容から判断することになる。
- ・設定した【題材の評価規準】を基に「概ね満足できる状況（B）と判断されるポイント」は次のとおりである。

- 音楽のよさや面白さなどを生み出している要素の働きに気付いているか。  
→旋律の動き、問いや答え、強弱など
- 表現したい思いや意図とその理由の記述が妥当であるか。

- ・右の図1は、子どもの学習カードの記入例である。5～8小節目については、旋律の音の動きに合わせて、盛り上げていったり、落ち着いた感じにしたりという思いや意図が記されている。9～12小節目では「ピンヨロー、ピンヨロー」の部分で親子のとんびが呼びかけ合っているように、強弱を手掛かりに思いや意図が記されている。
- ・この学習カードを書いた子どもは**旋律の動き、問いと答え、強弱などの働きに気づき、表現したい思いや意図とその理由について記述**している。さらに、強弱の変化と旋律の動きを結び付けて歌うと、とんびの飛ぶ様子がより表されることを的確にとらえるなど、質的に高まった学習状況であるとみられるため、「十分満足できる状況（A）」と判断することができる。

図1：〈とんび〉の楽譜を記した学習カードの記入例（5～12小節目を抜粋）

理由：音が上に向かっていて、とんびがいない感じにしたいからもりあげる  
音が下がっているので、少しおちついた感じにする

よびかけ合、てるように

理由：親子のとんびがよびかけ合、てるようにしたいので、つよくよわくを順番にした

平成23年11月  
国立教育政策研究所教育課程研究センター  
「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」より転用  
[http://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/shou/06\\_sho\\_ongaku.pdf](http://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/shou/06_sho_ongaku.pdf)